

センターにおける報道対応について

1 まずは深呼吸。落ち着いて対応しましょう。

* 友好関係を構築しましょう。

2 各社個別対応は、できれば避けましょう。

* ケースバイケースですが、定時に情報提供の場(会見)を設けるなどして、対応に追われることのないように工夫しましょう。

* 取材や情報提供に関して、ルールを书面化し配布するのも良いでしょう。
口頭や貼り紙などでは、入れ替わり立ち替わりの動きに対応できないことがあります。

3 マスコミとの対応窓口は1本に絞りましょう。

* 複数の人間がそれぞれ対応してしまうと、情報が錯綜する原因となります。

* 県や市(政令市など)のボランティア本部と現地とで、役割分担を決めましょう。

* センター内のスタッフにも、『取材を受けたら〇〇さんに』と徹底を。

4 取材に対しては、事実に基づいた内容を話すようにしましょう。

* 確認の取れていないことや個人的な感想は控えます。

* 情報の内容については状況の変化があることを踏まえ、「あくまで現時点では」などと念押しをした方が良いでしょう。

5 発表内容は5W1H(いつ・どこで・だれが・なにを・だれに・どんなふうに)をきちんと盛り込み、正確な内容を心がけましょう。

* 物資の提供依頼は慎重にしましょう。不用意に募集を呼びかけると、大量の物資が届くことがあります。

* 災害対策本部と連絡を取り、正確な情報の把握に努めましょう。

6 対応にあたっては、窓口となる人の傍らに現場をよく分かっている人や対応に慣れた人がサポートにつくと良いでしょう。

* 対応経験のある外部の人にアドバイザーになってもらうのも良いでしょう。

7 密着取材・同行取材を希望される場合があります。

* 被災者宅や避難所などでの取材の場合は、ボランティアや依頼主(被災された方)の了解が前提となります。事前に電話で取材の可否を確認するか、現地で了解を貰うようにします。ただし、被災者心理、ボランティア心理として『断りたいけど断りにくい』場合がありますので、被災された方の拒否権・自己決定権には十分に配慮しましょう。

* 各班のリーダーにも、上記や写真撮影など注意点を十分に説明するようにしましょう。

8 発言・発表内容と報道内容とにずれがあった場合は、県や市などのボランティア本部と相談の上対応しましょう。

* 反射的に対応して、感情的な対応にならないように注意します。

※参考文献：全国社会福祉協議会「災害ボランティアセンター運営支援者手帳」より
にいがた災害ボランティアネットワーク 李仁鉄氏作成「マスコミ対応の留意点」